

沖縄県石垣市「螺旋穴」新洞調査報告

Ishigaki City, Okinawa Prefecture "RASEN-ANA" New Cave Survey Report

相場 浩輔 (AIBA, Kosuke 東京スペレオクラブ所属 埼玉県在住)

基本情報

所在地: 沖縄県石垣市

洞窟種別: 石灰洞

洞窟形態: 縦横複合洞

地質: 琉球石灰岩 (大浜層)、富崎層

形成年代: 新生代第四紀更新世

水流: 降雨時のみ有り

測線総延長距離: 480.30m+ α

高低差: 20.60m+ α

調査隊員

調査年	調査内容	調査隊員
2018 第1次調査	洞口探査	相場浩輔、松島昭司
2021 第2次調査	洞内探査	相場浩輔、長谷川幸祐、 長谷川春日
2022 第3次調査	測量・洞内探査	相場浩輔、熊谷西納、 田村常雄
2023 第4次調査	測量・洞内探査・ 写真撮影	相場浩輔、熊谷西納、後藤聡、 島岡美名、飯島わかな
2023 第5次調査	測量・洞内探査	相場浩輔、熊谷西納、小林知風、富澤りの、 Judy Frederic Tayo、山口楓雅、片山綾音

螺旋穴発見と調査の経緯

石垣島の新洞探査を開始して既に14年が経つ。その間40か所余りの新洞を発見してきたが、その中の一つ「螺旋穴」が複雑な構造の中規模洞であることが判明した。

その概要と調査結果をここに記す。諸事情のため洞口特定に繋がる情報は一切公開できないことを付記しておく。

螺旋穴最初の発見は2018年に遡る。

当時、元石垣市教育委員会教育部長の松島昭司氏と共に石垣島北部の某地域で新洞探査を行っていた。

フィッシャーに沿ってレベルごとにトラバース調査をしている最中、中層レベルで大きく開いた洞口を発見した。これが螺旋穴第1洞口である。しかしこの時は当該地域全体の洞口搜索が目的であったため洞口直下のホール2か所を探査確認したに留まり、第1洞口手前のフィッシャー (のちに第2洞口と判明) と10mほど離れた小洞口 (のちに第3洞口と判明) は探査しなかった。

3年後の2021年11月に主洞 (ムーンライトホール)、A、B、C、D、E系統が発見され、当初の予想より複雑でかなりの規模であることが判明し本格的な調査に着手することになった。さらに2022年10月31日、相場・熊谷・田村の3名によって新支洞および大ホール (コズミックホール) が発見、探査された。洞全体が螺旋状のループ構造を有する特異な形態であることから「螺旋穴」と命名された。

洞内測量は2022年10月24日~10月28日、2023年2月5日~2月12日及び2023年10月20日~10月30日の3期にわたって行われたが、その度に新支洞が発見され未だ完了には至っていない。

周辺状況から判断して第1洞口、第2洞口は地元住民には認知されていた可能性が高い。しかし洞内は人が足を踏み入れた痕跡は全くなく完全な新洞である。



第1洞口 (撮影: 熊谷西納)



第2洞口 (撮影: 熊谷西納)



第3洞口 (撮影: 熊谷西納)